

千曲川旅情の旅

島崎藤村

小諸なる古城のほとり

雲白く遊子悲しむ

緑なすはこべは萌えず

若草も藉くによしなし

しろがねの衾の岡辺

日に溶けて淡雪流る

あたたかき光はあれど

野に満つる香も知らず

浅くのみ春は霞みて

麦の色はつかに青し

旅人の群はいくつか

畠中の道を急ぎぬ

暮れ行けば浅間も見えず

歌哀し佐久の草笛

千曲川いざよふ波の

岸近き宿にのぼりつ

濁り酒濁れる飲みて

草枕しばし慰む